

特集1 学生座談会
私たちのソトカツ

特集2 ソトカツ×キラメキ
・キャンパスイルミネーション
・LIGHT ASIA FUKUOKA



ハタチ 20歳の原点

毎回、福岡女子大学に縁のある方々を紹介します。

ハタチ
あの人は20歳の頃、どんなことを考え、
どんなことに迷い、どんな選択をしてきたのか——
若き日の LIFE STORY

自分は自分。
それ以上でもそれ以下でもない。



城 小百合

JO SAYURI
公立大学法人 福岡女子大学
教務企画・入試班 班長

福岡県福岡市出身
1999年旧文学部国文学科卒業。
卒業後は福岡県へ入庁。
介護保険課、行橋市役所(出向)、
人事課、人事委員会を経て、2018
年から母校である福岡女子大学で
事務局職員として勤務

●20歳の頃読んでいた本

俵万智さんの「チョコレート革命」です。作者が28歳から34歳までを詠んだ第3歌集で旅先の情景を詠んだものも秀逸ですが、自分では起こせない背徳的な大人の恋愛革命に心が波立つのを楽しんでいました。

実は、ずっと短歌を読むことも詠むことも大好きで、ゆるやかに続けています。今も選者に俵万智さんがいる投稿歌壇を楽しみにしています。

安室奈美恵さんが「SWEET 19 BLUES」で、19歳を「いちばん旬なとき」と歌っていた1996年、20歳を迎えた私は、もう旬を過ぎていたんだなと思っていました。

当時は大学とアルバイトと部活(表千家茶道部)と恋愛の毎日で、成績も飛び抜けて良くも悪くもなく、国連で働きたいと語る同級生をまぶしく感じていました。自由に選べるのにそれに伴う責任を考えると躊躇してしまっていました。そんな年齢だけが「大人」になった自分に葛藤していました。けれど、「自分は自分。それ以上でもそれ以下でもない」と思うことで、乗り越えてきたように思います。

いかと考えたからです。当時のできごとで思い出すのは、塾講師のアルバイトのことです。塾講師として採用されたのに、私の仕事は、生徒の出欠を確認したり、プリントをコピーしたり、事務的な仕事ばかりでした。その理由は、「女性は保護者の信用が得にくいから」とのこと。衝撃でした。「男性」という看板だけで信頼が得られるの、「女性」というだけで人格を否定されるような扱いを受けるのか。これまで見えていなかった社会という「ガラスの壁」にぶつかった気がしました。

その後、大学4年生で参加した教育実習のとき、男性教諭が学年主任や進路指導に就き、長時間の仕事をごなし

ているのに対し、女性教諭は役職を持たず、家事や育児に追われて早々に退職する様子を見て、私の未来はここにあるのかと疑問を感じ、教師という職業から気持ち離れた。このように覚えています。

このような経験から、当時の言葉で言えば「男女共同参画」、今ならば「働き方改革」に興味を湧き、社会の仕組みを整えることを目指し、公務員を志望するようになりました。

たくさん経験を通して、苦しい時こそ笑うこと、笑う門には福来る！の精神を持つことで迷いがなくなったように思います。苦境に立たされても、自分の弱みを知って、それをさらけ出すこと、前向きに事にあたること、必ず手を差し伸べてくれる人がいることを知りました。失敗したり、悩んだりしても、さらなる一歩を苦し紛れにでも踏み出すことの意義を、今も心に留めて過しています。

枠を超えたその先に、 彼女たちが見つけたものとは



公立大学法人
福岡女子大学広報
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
No.105 Winter 2019

You should be the change that
you want to see in the world.
Mahatma Gandhi
あなたがこの世で見たいと思う変化に、あなた自身がなりたい。
マハトマ・ガンジー

CONTENTS

- 01-05 特集1 学生座談会
私たちのソトカツ
- 06-08 特集2 ソトカツ×キラメキ
・キャンパスイルミネーション
・LIGHT ASIA FUKUOKA
- 09-14 FWU NEWS
- 09 events
・福岡女子大学100周年記念事業推進会発足式
・2017年度秋卒業式
・2019年度秋入学式
・第66回かすみ祭
- 10-11 international
・2018年度 夏季海外語学研修報告会
・2018年度 WJCプログラム秋学期開講式・留学生歓迎会
・留学説明会
・大学教育再生加速プログラム(AP)3校合同シンポジウム
・日田高校SSH国内研修
・インドネシア大使館訪問
・スリランカ研修「非日常的な体験 in Sri Lanka」
- 12 outreach
・ロコモティブシンドローム予防セミナー
・ひらめき☆ときめきサイエンス
・中学校職場体験学習
・文化芸術推進事業 特別公開講座「感性がひらかれるとき」
・第三回 福岡女子大学新能
- 13 academic life
・「香椎・香住ヶ丘さくらネット」のシンボルマーク制作
・櫛伊ズミ(ゆめタウン)と福岡女子大学コラボ弁当企画・販売
・APM MA Awards受賞
・産学連携商品「あなごだし」開発
・英国バース大学経営学大学院から高等教育分野の
経営学博士号(DBA(HEM))を授与
・ラグビーワールドカップ2019 関連イベントを企画・実施
- 14 INFORMATION
・福岡女子大学 100周年記念事業基金
・福岡女子大学 国際化推進基金
・福岡女子大学 人事消息

特集1 学生座談会 私たちのソトカツ

新・社会人基礎力



変化が激しく、複雑性が増す現代の社会において、大学は、単に専門知識を身につける場所ではなく、社会を生き抜くための基本的な能力を育む場所として期待されています。

そんな中、経済産業省は、人生100年時代の社会人基礎力として、これまでの社会人基礎力に加え、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「どう活躍するか」という3つの視点を新たに盛り込みました。これからの時代、それらの視点を持って主体性を高め、自らの「持ち札」を増やすことでキャリアを切り拓いていくことが求められます。

今回の特集は、その「持ち札」を増やす機会の一つとして注目される「ソトカツ」です。次代の女性リーダー育成を掲げる本学の学生たちが、未来の社会をつくりだすスタンスや力を、何を通して、どのように身につけていこうとしているのかを探ってみました。

ファシリテーター



和栗 百恵
WAGURI MOMOE
国際文理学部 准教授

1999年米国スタンフォード大学大学院修了。スリランカや日本のNGOでの国際協力活動に従事した後、中央大学、早稲田大学、大阪大学で体験的な学習プログラムを開発・実践。その経験をもって、2009年10月から本学に赴任、現在に至る。

「ソトカツ」とは…
今回の特集のテーマである「ソトカツ」とは、大学の外という物理的枠組みを超えた活動はもちろん、授業や大学内での活動において、当たり前と認識していることや、変わらないと思っている制度などの枠組みを超えて「ソト」に飛び出してみる、はみ出してみる活動の総称です。



学生座談会
私たちのソトカツ
枠を超えたその先に、
彼女たちが見つけたものとは



枠を超えた学内外の活動
「ソトカツ」を経験

和栗 今日は、さまざまな「ソトカツ」を経験してきた皆さんが集まってもいいですね。それぞれ、これまでのようなソトカツを行ってきただけで聞かせてください。

後藤 私のソトカツは学内での活動です。本学の学生は全員、委員会活動をするようになっていますが、私はやる気がなく、あまり活動しなくてもよさそうだからという理由で、オリエンテーション委員を選びました。ところが、クジ引きで副委員長になってしまったのです。その後、先生方から委員会で何をやるのか、何を身に付けられるのかといったことを問われ、委員会に対する考えが変わっていききました。そしてせっかく活動するのなら、社会性や主体性を身に付けられる活動にしたいと思うようになり、現在も委員会の改革を進めています。

和栗 人にやらされているのではなく、自ら活動するよう意識を変えたということですね。では、米原さんはどんなことをしましたか。
米原 小さい頃からモデルになりました。高校生の時にモデル事務所

ル事務所に声をかけられたのをきっかけに、本気で目指すようになりました。反対していた両親に、「大学生になったら活動してもいい」と言われましたので、大学入学と同時にモデル活動を始めました。

和栗 米原さんは、本学でも一番カリキュラムにボリュームのある食・健康学科ですよ。両立するのは問題ありませんでしたか。

米原 私の中では両立しているつもりだったので、3年生の時、どうしてもスケジュールを動かせない撮影で、後で取り返す！という気持ちでやむなく授業を休んだら、先生から注意を受けました。そのとき、周りから頑張りを認められていないということ、両立できていないのだなと思ったのです。それで、モデルの仕事も長く続けていくためにも、今は実力を付けることを優先しようと思います。3年生の後期から1年間休学しました。大学の勉強を言い訳にできないように、自分を追い込んだところもあります。

和栗 なるほど。では、李さんはどんなことをしたのですか。
李 私は1年生のとき、「新宮町のおもてなし協会」のインターンシップに参加しました。新宮町の相島を訪れた韓国人の観光客が、島に韓国語の表記がなくて不便だったとプロ

グに書いているのを見て、その不便さを私が解決してあげたいと思ったのがきっかけです。でも、インターンシップは3年生で参加するものだと思っていたので、キャリア支援センターに1年生でも参加できるか相談に行きました。結果、参加することができ、メニューなど、韓国語表記のものを作成するお手伝いがありました。

和栗 李さんの中では、何年生でインターンシップに行くかはハードルではなかったのですか。
李 はい。でも、友人からは「1年生でもうインターンシップするの？早いんじゃない？」って言われました。私は、インターンシップは、自分が何かをすることで、良い影響をもたらす社会活動だと思っているので、3年生でなくても参加していいと思います。

和栗 ではなぜ、みんなは1年生で参加しないと思いますか。
李 大学受験が終わったばかりだから、自由な時間を過ごしたいんだと思います。それとインターンシップは、就活前の3年生で参加するものだと思います。

和栗 李さんは、やりたいことがあれば、枠を意識せず動くほうですか。
李 はい。やりたいことは絶対に成し遂げるタイプです。

EYHプログラム[※]を活用し、
海外で働き、社会を学ぶ

和栗 李さんも米原さんも強い意志を持っていてそれを疑っていませんよね。素晴らしいことです。欧米では、高校を卒業した後、1年間、大学入学を延期して世界中を旅したり、自分の興味があることに没頭したりする「ギャップイヤー」と呼ばれる慣習があります。その1年で自分の中にさまざまな引き出しができ、大学で学ぶ上でも有益だと言われている、文部科学省が日本でも推進しようと事業枠をつくり、本学でも採択されています。

それが「EYHプログラム」です。海外もしくは国内で2カ月間、長期学外学修ができるのですが、荒木さんは、それを利用してオーストラリアに行ったんですね。どんなことをしたのですか？
荒木 東欧地域を統括しているH.I.S.ウイーン支店の社員として働かせてもらいました。ヨーロッパも、一人暮らしも、社会人経験も初めてでしたが、日本にいるときよりも、規則正しく充実した生活を送っていました。

和栗 EYHプログラムに参加しようと思ったのはなぜですか。
荒木 もともと昔から旅することが

大好きで旅行業界に興味があり、進路の参考として、就業体験してみました。経験したからです。留学は高校生のときに経験していたので、留学じゃない何かに挑戦したいと思って、海外で社会貢献ができるEYHプログラムに応募しました。

和栗 荒木さんも、枠にはまりたくないほうですか？
荒木 そうですね。高校のとき留学した経験などから、枠にはまらない生き方のほうが私には合っているなと思ったんです。そこから、みんなと違うことをやってみたいと思うようになりました。EYHプログラムに参加したことで、自分がいつの間にか、「大学生」という型にはまった生活をしていないことに気付きました。

和栗 おもしろいですね。本学の学生は、型にはまっている人が多いと感じますか。
荒木 高校のときは型破りな学生が結構いたのですが、本学の学生はいろいろなチャンスがあるのに似たようなことをしていて、もったいないなと感じることがあります。
和栗 なぜ、学生はみんな似たような方向に向いてしまうと思いますか。
荒木 たぶん、安心感だと思います。型にはまったほうが安定するし、周囲からも心配されませんから。

※EYH(EXPANDING YOUR HORIZONS)プログラム/EYHホームページ: <http://www.fwu.ac.jp/gapyear/>



国際教養学科3年
李 周英さん
LEE JUUYOUNG
釜山聖母女子高等学校出身

専攻は、東アジア地域研究。2016年韓国から外国人留学生試験を経て本学へ入学。韓国語スピーチ大会の運営スタッフや新宮町おもてなし協会でのインターンシップ、日韓青少年スポーツ交流会の通訳スタッフ等、韓国と日本のかけ橋として活動。




環境科学科3年
後藤 百那さん
GOTO MOMONA
福岡高等学校出身

専攻は、国際環境政策。2017年度オリエンテーション委員会副委員長。「教職員と学生がつくる大学」実現のため新入生へ向けたオリエンテーション改革を実行中。周りの学生たちを巻き込む柔軟なリーダーシップ、おしゃべり型合意形成の達人。




食・健康学科4年
米原 夕貴さん
YONEHARA YUKI
熊本学園大学付属高等学校出身

専攻は、予防医学、公衆衛生。次世代を育む若年女性のヘルスリテラシー向上をめざす。モデル事務所所属。2016年から1年間芸能活動のため休学。ミスユニバース福岡2016ファイナリスト。マヤ暦アドバイザーの資格をもつ。




国際教養学科2年
荒木 優花さん
ARAKI YUKA
聖和女子学院高等学校出身

本学EYH (Expanding Your Horizons: 新しいことを経験し、学ぶことに自分の可能性を広げる) プログラムに参加。オーストラリアのH.I.S.で2カ月のインターンシップを経験。幼少より音楽を学び、芸術活動を続けている。



リスクを負っても挑み、
得られるものとは

和栗 皆さんは、そうした安定を求める傾向をどう思いますか。

李 安定ばかりを求めていると、人生がつまらなくなる気がします。

米原 私も同じです。モデルの仕事は毎回違う現場で、違う人たちと関わるので、リスクもありますが刺激もあって楽しいです。

和栗 後藤さんはどう思いますか。物事を変えようと思えば、リスクも伴うと思うのですが。

後藤 そうですね。でも、周りに合わせたいという気持ちもわかります。私も以前はそうだったので。そういう人たちも何かしら自分の考えに基づいた不満はあるんです。でも自分では動かない。それってするんですよね。私はずっとずるい人でした。でも不満があるんだったら、自分が動いて変えていこうと思うようになりました。

和栗 でも、考えを変えるのは、簡単なことではなかったでしょう。

後藤 私はもともと正義感が強い方です。中学校のときに生徒会長、高校では部長を経験していて、何でもストリートに言うほうでした。だから衝突することも多くて、もう何もしないほうがいいのかなと思うようになり、大学では動くこととしました。

した。でも、そんな自分が嫌で、これまでとは違うリーダーシップを模索し始めたのです。そして、人を動かしていくには、素直さが大事だと気付きました。言うべきことは言い、が、間違っても認めるし、周りに頼りたいときは頼る。友達のように接することで、今は温かな関係の中で活動できています。

ソトカツを通して
得られた自主性や社会性

和栗 ソトカツをしたからこそ、得られた視点や能力などはありますか。

荒木 入学してたくさんの科目を学ぶうちに、本当に自分がやりたいことは何なのか、よくわからなくなっていたのですが、オーストリアでツアー企画を任せてもらったとき、こうしたことがやりたかったんだと、学びたいことが明確になりました。

米原 私は、「なぜ」の部分深く考えるようになりました。仕事には必ず目的があります。そこを共有していなければ、クライアントの希望に添えない動きをしてしまつて、結果「あの人はいらない」つてことになってしまつてます。だから、クライアントが何を求めているのか、いつも考えるようにしています。

李 私は、実は自分から人に声をかけられない性格でした。でも、ソトカツではこちらから声をかけなければならぬ状況が多く、最初は躊躇していましたが、声をかけてみなければ相手の気持ちもわからないし、それで自ら行動を起こすようになりました。

カツではこちらから声をかけなければならぬ状況が多く、最初は躊躇していましたが、声をかけてみなければ相手の気持ちもわからないし、それで自ら行動を起こすようになりました。

後藤 私は社会性が身に付いてきたと思います。例えば、委員会で学生からの提案を教職員の皆さんに伝える場合、企業のプレゼンのように根拠となるデータを集めたり、提案前にさまざまな準備をしなければなりません。大変ですが、このような経験は社会人になつても役に立つと思つています。

ソトカツを活かし、
次代で活躍できる女性へ

和栗 では最後に、大学内でもソトカツを広げるには、どうしたらいいと思いますか？

後藤 委員会改革を進めている立場から言えば、委員会を社会性や自主性を学べる場として活用してほしいですね。教職員の方にも協力いただきながら、みんなのソトカツになるようにできればと思います。

米原 この座談会のような機会があるといいと思います。日頃はどうしても授業に追われているので、自分の頭で考えて議論することが少ないような気がしています。だから、このような座談会があればお互いに刺

激になると思います。

李 経験したら考え方が変わることも多いので、経験した人たちの話を聞く機会を増やして不安を払拭するといいかもかもしれませんね。

荒木 私は、ソトカツという概念がなくなくて、当たり前になつたらいいと思います。また、ゲストスピーカーなど、良きお手本となる人と出会う機会があれば、自然にソトカツを促せるのではないのでしょうか。

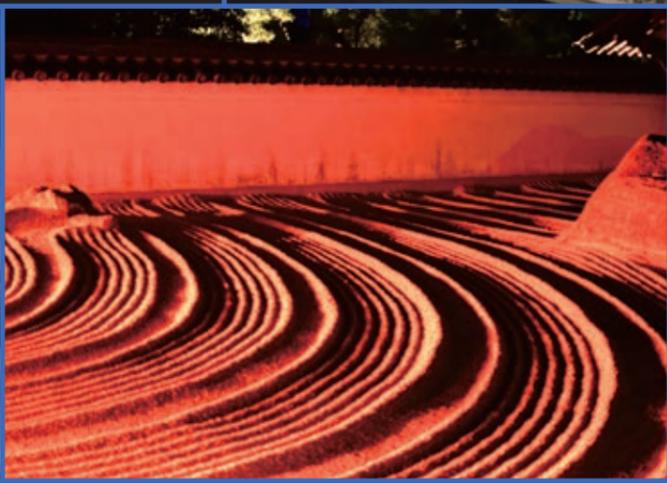
和栗 ありがとうございます。皆さん「自分とは何か」しっかり考えていますよね。そこを考えないで、いろんなことを消費するのは簡単だと思います。でも、本当に成長するためには、自分と真剣に向き合い、自分の頭で考えることが大切です。大学も学生の皆さんがソトカツを経験できるチャンスがたくさん用意されています。そうしたチャンスを活かして、自分と、社会と向き合い、次代をつくりだしていつてほしいと思います。

座談会後記

「点」がつながる時となった。「こんな人、学内にいたの？」と盛り上がる彼女たち。「こんな機会をもっとあるといい」—大学の役割はそこかもしれない。放っておくと、「ヤバイ」の応酬で会話が成立しがちなところ、お互いの経験を深掘り言語化し、お互いと出逢っていくような機会。

建学の精神にもある「次代」という言葉。次代をつくりだすためには、既存の枠組みから出ることも求められよう。そんな時、そこはかとなく持つ不安や異端感。それを志や夢に向かう仲間たちとの連帯感に。次代の女性リーダーたちよ、はみ出しを危ぶむなかれ。

(和栗)



特集2

ソトカツ
#SOTOKATSU
Be the change

ソトカツ×キラメキ
キャンパス
イルミネーション
◆
LIGHT ASIA
FUKUOKA

街中を彩る
イルミネーション。
その光に魅せられた
学生たちのソトカツを
ご紹介します。

キャンパスイルミネーション ソカソ×キラメキ

11月23日より、キャンパスイルミネーションが始まりました。今年、本学客員教授の松下美紀先生が監修したイルミネーションに加え、有志の学生チームによるイルミネーションが登場しました。「インスタ映え」をテーマに松下先生の指導を受け、何度も企画を練り直し、実現しました。



▲ 松下先生との打ち合わせ



▲ 設営の様子



▲ 左より、田中さん、城丸さん、林さん



協力: LIGHT FACTORY

「キャンパスイルミネーション 2018 点灯式&コンサート」を開催しました。

本学では、キャンパスのオープン化を推進し、地域の方々とより一層の交流を図ることを目的に、様々なイベントを開催しています。

この度、その一環としてキャンパスイルミネーションを実施することとなり、初日である11/23(金・祝)に「点灯式&コンサート」を開催しました。学生だけでなく地域の方にもご出演いただき、素敵なコンサートとなりました。寒い中、多くの方に来ていただきまして、誠にありがとうございました。

点灯式&コンサートの様子につきましては、次号にて紹介いたします。



初めての企画、初めての経験 学内企画の キャンパスイルミネーション



環境科学科 3年
林 優里さん
HAYASHI YURI
筑紫高等学校出身

今年より初めて学生企画のイルミネーションができることになり、ぜひ挑戦してみたいと思い、参加しました。同じ学科の城丸さんと院生の田中さん、私の3人で大階段横の小さな広場にイルミネーションを作りました。

私にとって、自分たちだけで何かを作り上げるというのは初めての経験で、色々な場面でものづくりの難しさを感じました。やっとすべて完成した矢先にドームが飛んでいき、ツリーが倒れてしまうなどのトラブルもありましたが、多くの方の助けもあり私達のイメージ通りのものが出来上がり、大変だったけど、参加して本当に良かったと思いました。

私達のイルミネーションは、1月の初めまで点灯していますので、それまで多くの方に楽しんでいただければ嬉しいです。

国際文理学部 環境科学科
森田 健 教授
MORITA TAKESHI



本学の客員教授でもある照明デザイナーの松下美紀さんから、「LIGHT ASIA FUKUOKA 2018」の話いただいたのは7月頃のことでした。チームで提案をまとめていくこと、そしてそれが実際の空間に反映され、評価を得ることを経験する絶好の機会になると思い、是非本学の学生を参加させたいと即答しました。

参加した学生たちから、海外の照明デザイナーとの英語での意思疎通や他大学のチームメンバーとの協力関係などから多くのことを学ぶとともに、提案した照明デザインが「博多ライトアップウォーク 博多千年煌夜」の中で浮かび上がったことへの感動を聞き、本当に良い機会になったのではないかと思います。今後もこのような機会(チャンス)には多くの学生たちの積極的な参加を期待します。

大きな達成感と喜びを得た LIGHT ASIA FUKUOKA 2018



環境科学科 3年
佐藤 亜香梨さん
SATO AKARI
戸畑高等学校出身

LIGHT ASIA FUKUOKA では、世界から集まった5人の照明デザイナーと大学生が承天寺とその周辺のライトアップデザインを考えるワークショップが行われ、作品は「博多ライトアップウォーク」で公開されました。

私は博多千年門を担当しました。歴史や現地調査を行い、コンセプトを決め、光を当てる場所や光の色など、チームで一つひとつ決めていきました。英語でのやりとりや、照明器具をどこにどの角度で設置するかなどの細かい調整は思っていた以上に大変でした。しかし、チームで協力して一つの作品を作りあげ、その作品を沢山の人が眺めたり写真を撮ったりして楽しんでいる姿を見て大きな達成感と喜びを感じることができました。大学ではできない、貴重な体験になりました。



▲ チームのメンバー



▲ ミーティングの様子



▲ 最終発表会

LIGHT ASIA FUKUOKA

「LIGHT ASIA FUKUOKA 2018」は「承天寺」と「博多千年門」で実施された照明デザインの教育を目的とした事業です。世界5カ国から招かれた照明デザイナーと九州大学工学部建築学科・九州大学芸術工学部、東京理科大学理工学部建築学科と本学環境科学科の学生が一緒になり、イルミネーションを手がけました。海外の照明デザイナーの方や他大学の学生と共に考え学ぶことで、たくさんの刺激を受けて帰ってきました。



▲ 博多千年門

International

2018.9.27

2018年度 夏季海外語学研修報告会を開催

2018年度夏季海外語学研修に参加した23名の学生による報告会を9月27日に行いました。

参加者は、興味のある分野から自主研究のテーマを選び、データ収集や文献の調査を行います。帰国後に実施するこの報告会では、研究成果をパワーポイントを使い発表します。報告会は、異なる複数の研修と合同で行うため、他研修参加者からの質問によって、新たな気づきがうまれたり、さまざまな研修について情報を得ることができ、新たな刺激となっています。



▲ ジョンライアンズ図書館

初めての海外生活となった英語・イギリス文化研修

2018年8月17日～9月9日

初めての海外生活は、今まで経験したことのない大変貴重な時間となりました。今回の私の研究課題である「イギリス英語とアメリカ英語の違い」については、現地の授業で学んだ他、美術館や博物館に行き、学芸員の方々とインタビューを行うことで、さらに見識を深めることができました。その中で自分の英語力の未熟さに気づかされたことも事実であり、来春からのルンド大学(スウェーデン)への交換留学に向けて、良い準備の場となりました。

国際教養学科 3年 本多 純礼さん



▲ マンチェスター大学の正門

▲ 担当教員と本多さん

2018.9.20

2018年度 WJCプログラム秋学期開講式・留学生歓迎会を開催

秋学期のWJCプログラム(The World of Japanese Contemporary Culture Program)は、13カ国の13大学から24名の留学生を受入れて開講しました。9月20日に開催した開講式では、梶山学長からこれからの本学での留学生生活が有意義なものとなるよう、激励の言葉が贈られました。WJCは、海外の有力協定校の交換留学生に、英語で開講する授業、自主研究、文化体験、地域交流や寮生活といった様々な学習の機会を提供しています。授業内容は日本の現代文化だけでなく、伝統文化から地元、博多の文化にも及びます。

同日午後には開催したWJC留学生と国際文理学部所属交換留学生の合同歓迎会では、JD-Mates(学生サポーター)として活動する日本人学生と関係教職員も参加し、和気藹々とした雰囲気の中で歓談しました。



▲ 開講式後の集合写真



▲ 歓迎会の様子



▲ 開講式での自己紹介



ベトナムで行われた福岡県留学生サポートセンターの留学フェアに行った時から、福岡女子大学に入学したいと思うようになりました。キャンパスや寮がきれいですし、日本人だけではなく、世界中から集まる学生たちと一緒に勉強できるので、留学先として福岡女子大学WJCプログラムを選びました。

福岡は大きな町ですが、自然が豊かだし、食べ物もおいしいし、長い歴史を持っているので大好きです。さらに、私を一番感動させたのは人の優しさです。これまでに福岡女子大学の皆さんが親切に案内してくれて、留学生生活を支えてくれて、とても感謝しています。

グエン・ティ・ヒエン (NGUYEN THI HIEN) さん
(ベトナム国家大学ハノイ校 出身)



2018.10.4

留学説明会を開催

10月4日に、交換留学を目指す学生を対象に、今年度3回目の留学説明会を開催いたしました。

説明会では、留学の申請方法の案内や新規3大学を含む派遣先大学の紹介を行いました。また、留学経験者の宮原さんと飯田さんが、それぞれ台湾とタイでの自身の留学成果を発表し、参加した約90名の学生達は大きな刺激を受けたようでした。多くの学生が交換留学に興味を持ってもらえるよう、今後も留学説明会等の機会を通じて、情報提供を行っていきます。



食・健康学科 3年 宮原 奈美さん
タイのタマサート大学に1年間交換留学
2017年8月～2018年6月



食・健康学科 3年 飯田 海帆さん(写真右端)
台湾の淡江大学に1年間交換留学
2017年9月～2018年6月

Events

2018.11.7

福岡女子大学100周年記念事業推進会発足式を開催

福岡女子大学100周年記念事業推進会(以下「推進会」という。)は、本学の創立100周年記念事業を学外、とりわけ地元経済界から応援していただくことを目的に設立した組織です。会長には九州電力㈱の鎌田特別顧問が就任しています。

2018年10月現在、会員数が82社(企業・団体)に達したことから、11月7日に本学で発足式(キックオフ)を開催しました。

当日は、鎌田推進会会長、梶山理事長兼学長、矢野同窓会会長から、発足式に出席した62社の代表の皆さまに、100周年記念事業へのご支援、ご協力を呼び掛けますとともに、キャンパスツアー、懇親会を実施しました。

図書館、美術館、学生寮を視察した企業の皆さまからは、「施設が素晴らしい」「すれ違う学生が礼儀正しかった」等の感想が寄せられるなど、2023年の創立100周年に向けて弾みのつく行事となりました。



2018.9.19

2019年度 秋入学式を挙行

9月19日に、2019年度秋入学式を執り行いました。秋入学は留学生を対象としたもので、新入生として呉歡祐さんが国際教養学科に入学しました。

私は2018年9月に三人目の秋留学生として、福岡女子大学に入学しました。小学校の頃、福岡の香椎浜に住んだことがあり、この大学に合格した時はすごく嬉しかったです。

また、本学ではJD-Matesと言う日本人の学生が一人の留学生を1年間かけてサポートしてくれるので安心しました。今は国際教養学科にいて、コース分けの時は国際経営、マネジメントについて学びたいと思っています。将来は何をしたいかまだ決めてないので、ここでの4年間自分に合う事を探したいと思います。

国際教養学科 1年 呉歡祐さん



2018.9.20

2017年度 秋卒業式を挙行

9月20日に、2017年度福岡女子大学卒業証書・学位記授与式(秋)を執り行いました。卒業生は国際教養学科4名、環境科学科1名の合計5名。中村 強国際文理学部長より卒業証書、吉村副学長より学位記が授与されました。お天気はあいにくの雨でしたが、温かい雰囲気の中、無事に卒業式を終えることができました。



▲ 学位記授与の様子(写真は国際教養学科 廣田麻美さん)

2018.11.3/4

第66回かすみ祭を開催

11月3日・4日に福岡女子大学の学園祭である、かすみ祭を催しました。かすみ祭にはWJCプログラムの学生も参加しました。

新キャンパスに生まれ変わった本学でのかすみ祭に多くの方にご来場いただき楽しんでいただきたいという思いを込め、「ReBorn～ヒカリ放つGift～」というテーマを掲げ、企画を工夫したり新しく加えたりと、実行委員一丸となってかすみ祭に向けて準備を重ねてきました。当日には、多くの方楽しんでいただけたこと、実行委員で協力してかすみ祭を作り上げられたことをとても嬉しく思いました。

国際教養学科 3年 宗 菜月さん



▲ かすみ祭実行委員



KASUMISAI

My name is Katja Gäf and I am a WJC student from Lund University, Sweden. Fukuoka Women's University had its annual Kasumisai on the 3rd and 4th of November. This was the first university festival I had ever attended. WJC students prepared food, which this year was padthai, together with JD-Mates WJC. It was a lot of fun preparing our tent with decorations and learning to cook real Thai food from the Thai students. We also practiced performing the song Cherry, it was during these practices we WJC students got to know each other and I think that is why the Kasumisai was exciting. I had very fun cooking the food with other WJC students and JD-Mates WJC. Although, it was enjoyable meeting the locals as well as other university students. The best part of the festival has to be all the inspiring performances that was performed.

WJC留学生 Katja Gäf さん

Outreach

2018.7.27

「ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を開催

日本学術振興会の小・中・高校生向けプログラム「ひらめき☆ときめきサイエンス」に採択され、本学において、「ナメクジは賢い!～ナメクジの学習行動と脳の仕組み～」を開催しました。当日は小学校5年生・6年生の20名にご参加いただきました。

プログラムでは、担当の松尾亮太准教授(国際文理学部 環境科学科)からナメクジの脳の働きや特徴について学び、先生方や大学院生、大学生のサポートのもと、ナメクジの学習行動実験や解剖を行いました。

参加者の皆さんからは、「解剖は難しかったけど上手にできた」「貴重な体験ができて楽しかった」といった感想をいただきました。また、最後の質問タイムには多くの質問があり、皆さん興味深く熱心に学んでいました。



▲解剖実習

2018.10.11

「ロコモティブシンドローム 予防セミナー」で講演

10月11日に福岡市保健福祉局主催の「ロコモティブシンドロームに負けない体と健康づくりセミナー」が天神のエルガーラ・パサージュ広場で開催されました。

セミナーでは「ロコモティブシンドローム予防のための食事と栄養」について、KBCテレビアナウンサーの徳永玲子さんの司会で、お話をさせていただきました。今回、はじめてアナウンサーの方と一緒にお仕事させていただきましたが、会場の雰囲気づくりや話の進め方など、私も多くのことを学ばせていただきました。当日は、健康測定コーナーで「骨密度測定」・「ロコモ度チェック」・「血圧測定」・「血糖値測定」なども行われており多くの市民の皆様にご参加いただきました。

食・健康学科片桐 義範教授



2018.10.27/28

文化芸術推進事業 特別公開講座 「感性がひらかれるとき」を開催

アートマネジメント人材育成事業の一環として特別公開講座「感性がひらかれるとき」を開催しました。視覚に頼らず物や人とふれあった国立民族学博物館 広瀬浩二郎氏の講演・ワークショップ「感性をひらく」。アイマスクを使い創作・鑑賞を行った彫刻家 片山博詞氏のワークショップ「ふれる×つくる×わかちあう」。どちらも感性を研ぎ澄まし、想像力を使って深い気づきを見つける豊かな時間となりました。



▲「感性をひらく」(10/27)



▲「ふれる×つくる×わかちあう」(10/28)

2018.8.29-10.17

中学校職場体験学習の受け入れを実施

福岡女子大学では近隣の中学校を中心に職場体験学習に協力しており、今年度は香椎第1中学校4名、香椎第2中学校4名、和白丘中学校5名、照葉中学校5名、宗像中学校5名を受け入れました。

参加した中学生には、進学先としての大学だけでなく、職場としての大学を知ってもらうため、大学教員(研究者)、大学職員それぞれの仕事を見学・体験してもらいました。今回の経験が進路選択の一助となれば幸いです。



▲研究業務補助



▲学内広報誌のための取材(教員へのインタビュー)

2018.10.12

第三回 福岡女子大学薪能を開催

10月12日に本学大会館において、「第三回福岡女子大学薪能」公演を開催しました。同公演は「感性教育」の一環として本学国際学友寮などで暮らす1年生、留学生を対象に毎年開催しており、今年で3年目となります。

公演は狂言と能の2部構成となっており、狂言「萩大名」では人間国宝の山本東次郎氏が田舎大名を、能「葵上」では観世喜正氏が嫉妬に苦しむ六条御息所の生霊を妖艶に演じられました。

火入れ式には香住丘校区自治協議会から山中一男会長にも参加いただき、同窓会筑紫海会の迫田やよい副会長、国際文理学部国際教養学科1年の豊増幸江さん、胡静さんにより執り行われ、会場はおごそかな空気に包まれました。

学生、本学同窓会の方を中心に、教職員、地域の方々など300名を超える観客が約2時間、華麗な世界を堪能しました。



▲狂言「萩大名」人間国宝 山本東次郎氏



▲火入れ式



▲能「葵上」観世喜正氏

International

2018.11.3

大学教育再生加速プログラム(AP)3校合同シンポジウム 「キャンパスを離れて学んだ私たちのビフォー・アフター」を開催

九州・山口地区で、長期学外学修を推進している福岡女子大学、長崎短期大学、宇部工業高等専門学校が一堂に会し、各校の取り組みについて、発表および意見交換を行いました。100名以上の来場者に対し、長期に大学等を離れて外で学んだ体験を、学生たちが自分の言葉で伝え、情報を共有する良い機会になりました。



▲ポスターセッションの様子



▲本学からは[EYHプログラム]について紹介



▲[EYHプログラム]に参加した岡田さん(左)

EYHとは
Expanding Your Horizonsの略で、大学を飛び出し、国内外の企業や地域社会で様々な体験をするプログラムです。

3校合同シンポジウムに参加して

他校の学生と交流し、お互いに情報交換でき、とても良い刺激を受けたシンポジウムでした。特に、各学生の学びや経験を伝えたいという思いと個性が出たポスターセッションで、ポスターを見たり、話を聞いたりできて楽しかったです。

国際教養学科 2年 岡田 麻未さん

国内外の様々な場所で活躍してきた方と交流することはとても良い刺激となりました。自身のインドでの経験や感じ考えたことを大勢の人の前で伝える機会を設けていただいたことで、あの濃密な1ヵ月を整理し、次のステップを見据えることにつながりました。

(参加学生コメント)

2018.10.17

SSH国内研修でWJC留学生が 日田高校の生徒と交流

10月17日に大分県立日田高等学校の高校生がSSHの国内研修のため本学へ来学し、WJCに所属する留学生を交え、英語によるポスターセッションとグループセッションを行いました。お互いを理解しようとする懸念語り合う姿勢が和やかな雰囲気を生み出し、それぞれの学びに対するモチベーションにより影響を与えたようです。

SSHとは
スーパーサイエンスハイスクールの略で文部科学省が重点教育を行なう高等学校を指定する制度です。



2018.10.30

インドネシア大学使節団が訪問

10月30日にインドネシア政府教育省及び14私立大学の役員30名で構成する使節団が、本学を訪問し、本学の渡辺浩之副理事長と新聞章司副学長が出迎えました。同使節団は10月28日から11月3日まで日本に滞在し、福岡県と関西地方の数大学を訪問された模様です。

新聞副学長から本学の紹介を行った後に、インドネシアのガジャマダ大学から本学に交換留学している2名の学生が、学業の様子や福岡での生活について、インドネシア語で話してくれました。



▲ガジャマダ大学からの交換留学生



▲大学紹介(新聞副学長)

2018.8.30-9.12

非日常的な体験 in Sri Lanka

8月末から「グローバルフィールド学」の授業の一貫で、スリランカへ行きました。

8月30日～9月12日にかけて、スリランカで様々な体験をしました。初日のコロナ防衛セミナーでは、めったに参加することのできない国際会議の雰囲気を味わうことができました。その他に、JICAスリランカ事務所の訪問や、ペラデニヤ大学やコロポ大学での講義などを通して、スリランカ社会の課題や日本とスリランカの結びつきを学びました。また、伝統的なキャンディアン・ダンスを鑑賞したり、世界遺産であるシギリヤロックや仏歯寺を訪れたり、アーユルヴェーダを体験したりなど、文化体験も行いました。

その中で、最も印象に残っているのは、昔ながらの生活を体験できるハバナナビレッジツアーです。ココナッツをふんだんに使った伝統料理サンボルやインゲン豆のココナッツミルク煮などを、ご飯と混ぜて手を使って食べました。指をスプーン代わりに使い、親指で押し込んで食べましたが、うまく口に入らず難しかったです。

現地の人と関わりながら、現地の人の目線に立って物事を見ることで、新しい発見や考え方に会うことができました。



▲ペラデニヤ大学



国際教養学科 3年 吉住 歩さん



▲ビレッジ・ツアー



▲ソウの孤児院

INFORMATION

「福岡女子大学100周年記念事業基金」及び「福岡女子大学国際化推進基金」ご寄附の状況と寄附者様のご芳名紹介

福岡女子大学100周年記念事業基金及び福岡女子大学 国際化推進基金への多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。今後とも福岡女子大学への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

1 福岡女子大学100周年記念事業基金

◆ご寄附の状況 (2018年9月30日現在)

計	件数	寄附金額
	607件	36,103,000円

問い合わせ先

福岡女子大学100周年記念事業基金(募金)募金企画部(学務部学生支援班)
〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
Tel. 092-661-2418 Fax. 092-661-2415
Email 100th-bokin@fwu.ac.jp

◆寄附者ご芳名 (2018年7月1日～2018年9月30日)

お名前・寄附金額の掲載についてご了解いただいたご寄附者様 (寄附金額別、五十音順) ※カッコ内の数字は累計寄附金額です。

200万円	梶山 千里 様 (500万円)	5万円	藤井 清子 様	1万円	池田 美沙 様	1万円	谷川 多恵子 様
50万円	宮崎 輝恵 様		帆足 靖子 様		石橋 陽子 様		西山 純子 様
30万円	段谷 悦子 様		笠 瑠美子 様		浦 きよ子 様		前園 裕子 様
20万円	安倍 静子 様	4万円	佐藤 豊子 様		織田 加根子 様		松尾 楊子 様
10万円	筑紫海会 熊本支部 様	3万円	稲田 公子 様		影木 正子 様		萬徳 寛子 様
	松永 直子 様 (20万円)		貞方 美知子 様		木塚 洋子 様		宮本 善子 様
5万円	有川 寿子 様		佃 初美 様		木原 俊子 様		吉田 法子 様
	古賀 淳 様 (10万円)		奈良崎 八千代 様		坂本 栄子 様		吉田 芳子 様
	西岡 成子 様	2万円	石橋 美美 様		佐々木 公美子 様		渡辺 由美 様
	西原 そめ子 様		首藤 カツコ 様		園田 マサル 様	2千円	濱田 賀代子 様

お名前だけの掲載についてご了解いただいたご寄附者様 (五十音順) ※カッコ内の数字は累計寄附回数(回目)です。

石井 倫子 様	鹿毛 名穂子 様	竹元 明子 様	橋本 なほみ 様	村瀬 淳子 様
石松 孝子 様	梶原 公徳 様	CHOWDHURY	花森 由起子 様	村山 美和 様
井手 元子 様	古久根 由紀子 様	Mahbubul Alam 様	林 久江 様	諸富 美那子 様
伊東 敏子 様	齊藤 優子 様	月川 美穂子 様	原岡 恵美子 様	八木 良子 様
上田 妙 様	柴田 雅子 様	寺崎 映子 様	原田 梨穂 様	吉田 和子 様
上村 一恵 様	白石 素子 様	長尾 末子 様	平川 静子 様	渡邊 ハル子 様
浦川 典子 様	瀬戸口 紗弥 様	中田 法正 様 (2)	平田 初女 様	渡辺 優子 様
江川 紀美江 様	隆 ミワ子 様	永田 由美 様	古海 美枝子 様	
大音 恵子 様	高原 芳枝 様	野口 和子 様	(故)丸田 敬 様 (2)	
大森 厚子 様	高山 信子 様	野田 恵子 様	光岡 美恵子 様	

2 福岡女子大学 国際化推進基金

◆ご寄附の状況 (2018年9月30日現在) ※2010年度から2018年度まで

総計	件数	寄附金額
	1,495件	38,189,000円

問い合わせ先

福岡女子大学 国際化推進基金事務局
〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
Tel. 092-661-2412 Fax. 092-661-2420
Email fukujiyokikin@fwu.ac.jp

◆寄附者ご芳名 (2018年3月1日～2018年9月30日)

お名前だけの掲載についてご了解いただいたご寄附者様 (五十音順) ※カッコ内の数字は累計寄附回数(回目)です。

浅山 悦子 様 (2)	大谷 美枝 様 (2)	中村 サツキ 様 (1)
-------------	-------------	--------------

人事消息

新任(教員)

共通教育機構	AEP専任講師	Andrew THOMPSON
--------	---------	-----------------

新任(職員)

経営管理部	経営総務班	溝口 佳代
戦略企画センター	情報推進部門	田中 緑咲
学務部	学生支援班(保健室)	野口 美佐江
経営管理部	財務管理班	赤阪 美和子
学務部	教務企画・入試班	高島 京子
学務部	教務企画・入試班	塚 妙子

退職(教員)

共通教育機構	AEP専任講師	大谷 英理 果
--------	---------	---------

退職(職員) ※異動含む

経営管理部	経営総務班	守安 美穂
学務部	学生支援班(保健室)	永山 美希
学務部	教務企画・入試班	山岡 みか
経営管理部	財務管理班	松岡 礼子
学務部	教務企画・入試班	田中 康志郎

Academic life

2018.10.5～11月下旬頃まで販売

(株)イズミ(ゆめタウン)と福岡女子大学 コラボ弁当企画・販売

私たち食・健康学科の学生とゆめタウンがコラボして、お弁当を販売させていただきました。販売エリアが九州内ということで、お弁当のテーマを「まるっと九州弁当」として、九州各地のおいしい料理を詰め込みました。また、カロリーと塩分を抑えつつ満足できる、ボリュームたっぷりのお弁当を完成することができました。何度も打ち合わせを重ね、試作や栄養計算など大変なこともありましたが、自分たちで考案したお弁当が実際に販売されたことは、私達にとって貴重な経験となりました。

食・健康学科 2年 村上 萌さん



2018.10.17

産学連携商品「あなごだし」 を開発

本学が宗像市と結んだ包括連携協定の活動の一環として、宗像漁協、博多の味本舗と連携して、宗像産あなごを使った「あなごだし」を開発しました。あなごの加工後に残る骨・頭を活用し、独自の加工を行うことで臭みを消し、あなごの風味を引き出すことに初めて成功しました。研究室4年生の渡邊聡美さんも、分析、試食、ラベル作製まで幅広く開発に関わりました。道の駅むなかた、鐘の岬魚センターなどでまず販売され、今後展開していく予定です。みなさん、ぜひお買い求めください。

食・健康学科 石川 洋哉准教授



2018.10.25/11.17 インターン期間:2018/8/20～2018/10/19

ラグビーワールドカップ2019 関連イベントを企画・実施

「EYHプログラム」で、ラグビーワールドカップ2019福岡開催推進委員会事務局にて約2ヶ月の長期インターンシップに参加しました。ラグビーを若い世代により知ってもらうため、10月25日に、コカ・コーラ レッドスパークスの桑水流裕策選手と築城昌拓さんをお迎えし、ルール講座や芝生でのラグビー体験を行いました。また、11月17日に、ラグビー観戦バスツアーを企画し、本学の学生40名が参加しました。女子大生にラグビーの魅力を広めることができ、とても嬉しく感じます。

環境科学科 3年 花田 唯さん



2018.6月～8月

「香椎・香住丘さくらネット」の シンボルマークを制作

香椎・香住丘校区の高齢者施設・介護サービス事業所のネットワークである「香椎・香住丘さくらネット」のシンボルマークに、私の応募作品が採用されました。シンボルマークには、ネットワーク名の「さくら」の花びらをモチーフに人を表現しています。色は、安らぎをイメージさせる緑、温かみのあるオレンジを用いました。中心のハートは、孤立を防ぎ、人々がつながるようという思いを込めてデザインしました。

このシンボルマークが、多くの皆様の目に留まり、香椎・香住丘校区の地域貢献の一助になれば幸いです。

環境科学科 4年 伊藤 明梨さん



2018.10.25

APM MA Awards受賞

日・中・韓3国の大気環境学会の共同事業として発行している国際論文集「Asian Journal of Atmospheric Environment (AJAE)」に掲載された「Chemical properties and source profiles of particulate matter collected on an underground subway platform」が、AJAEに最近5年間掲載された論文の中で、最も多く引用されている学術論文に選ばれ、APM MA Awardsと副賞を10月25日済州で開催された、第61回韓国大気環境学会の総会にていただきました。今回の論文では、日韓共同研究として行われた地下鉄構内における粒子状物質を対象とし、新たな手法を用いることでそれらの化学的性状特性と発生源を明らかにしたものです。(APM:測定・分析分野の大手企業)

環境科学科 馬 昌珍教授



2018.7.11

英国バース大学経営学大学院から 高等教育分野の経営学博士号を授与

高原芳枝講師(国際化推進センター)が、日本人としては初めて、英国の名門バース大学経営学大学院から高等教育分野の経営学博士号(DBA(HEM))を授与されました。この博士号の特徴は研究と高等教育の専門的実践が融合した学際的研究にあります。課程在籍者は高等教育機関のシニアマネジメントレベルの専門家であり、その研究成果はこの分野の最先端研究とされています。学位記は7月11日にChancellorである英国王室のウェセックス伯爵エドワード王子から授与されました。



▲高原講師と指導教員